

ナショナルバイオリソースプロジェクト
中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成23年度第二回運営委員会議事録

日時：平成24年1月31日 13:30～15:00
15:00～16:30（関連ワークショップ）

場所：岡山大学資源植物科学研究所 小会議室

参加者：

掛田克行	三重大学 生物資源学部（委員長）
佐藤和広	岡山大学 資源植物科学研究所（課題管理者）
小松田隆夫	農業生物資源研究所
柳沢貴司	農研機構 作物研究所
加藤謙司	岡山大学 農学部
武田 真	岡山大学 資源植物科学研究所
前川雅彦	岡山大学 資源植物科学研究所
吉田英哉	岡山大学 資源植物科学研究所
最相大輔	岡山大学 資源植物科学研究所

オブザーバー：

宅見薫雄	神戸大学大学院 農学研究科
久野 裕	岡山大学 資源植物科学研究所（平成24年2月1日着任）
佐藤 清	NBRP事務局長

欠席：

山崎由紀子	国立遺伝学研究所
辻本 壽	鳥取大学 乾燥地研究センター
木原 誠	サッポロビール（株）

議 事

報告事項

1. 平成23年度経過報告

資料1：課題管理者・佐藤より，第1回運営委員会および平成23年度 site visit の概要報告があった。推進委員会・小原主査より，提供数が少ないとの指摘があったことが紹介された。

資料2：課題管理者・佐藤より，研究開発施設共用促進費補助金（NBRP）「ゲノム情報等整備プログラム」課題について，不採択だったことが報告された。

資料3：評価報告書に基づき，以下の点について報告があった。

(1) 総評：十分な水準に達している (P31)

(2) その他特記事項：ユーザー拡大を図る(P32)

資料4：平成23年度第1回推進委員会議事概要の報告があった。

2. 第3期の応募書類について

資料5：第3期の公募申請書類（中核的基盤整備プログラム）の内容の抜粋が説明された。

内容の概略は以下のとおりである。

- ・ 第1期，第2期で整備したリソースの維持。
- ・ ユーザー拡大に向けて，ゲノム基盤の整備状況が説明された（ドラフトシーケンスを3月に投稿予定）。岡山大学は「はるな二条」のショットガンシーケンスを公表予定で，国際コンソーシアムで解析している「Morex」と併せて公表することから，複数品種のゲノム情報が本年利用可能となる。
- ・ 予算申請(1年目)でディープフリーザーの更新のための予算を計上
- ・ ③目標達成に向けた実施計画：遺伝子単離のために必要な情報を体系的に提供する。学会やセミナー，ワークショップおよびメールニュースレター等で情報発信する。
- ・ ⑤震災対応を受け，リソースのバックアップ体制について，特にcDNAクローンのバックアップについて，生物研が保存を了解。（BACライブラリーについては，既に複数研究機関にバックアップ済み）
- ・ ゲノム置換系統（はるな二条背景）の寄託予定
- ・ 384 SNPs ジェノタイプ情報を付加，寄託予定。（コアコレクションなどの中核的材料から優先して整備する）
- ・ オオムギ，コムギ以外のリソースユーザーの開拓：genomic DNA，交配種子作成リクエストに対応（年間数件程度）
- ・ （様式3）に基づいて，予算執行の概要が説明された。
- ・ （別紙2）に基づいて，提供予定数の概要について説明があった。
- ・ （別紙3）に基づいて，第1，2期の実績について説明があった。

資料6：審査員からの質問事項として「利用拡大に向けた明確な戦略」「第1，2期に整備した付加情報を明確化」について質問されている旨，説明があった。

資料7：質問事項に対する回答（戦略）は以下の通りである。

- ゲノム情報の公開に伴うリソースの高度化（比較ゲノムDB，系統のSNPs情報整備と形質マッピングの簡易化に向けた基盤整備。
- ユーザーコミュニティの拡大
- 広報活動の積極的な推進。（ニュースレター，メール配信）

協議事項

1. 課金のカード決済システムについて

従来の銀行振込による決済では手続きが煩雑であり、収支が合わない事態も発生していることから、田中前文部科学省調整官、大学財務部との調整を経てカード決済の体制を整備中との説明があった。

資料8：導入を予定している京都工芸繊維大・ショウジョウバエリソース（課題担当：山本）のカード決済（NPOのクレジット決済）の契約が完了したことが示された。

資料9：NPOへの支払額の基準が説明された。

資料11：カード決済を利用した場合のオオムギリソース送付に係る経費の明細について、国内（学術、営利機関）、欧州（学術、営利機関）の場合を例示しながら説明があった。カード決済手数料が捻出されないことから、系統種子の単価を集団（¥20/系統→¥200/系統で種子準備費用廃止）、系統（¥300/系統→¥500/系統）への値上げすることが提案された。これについては、引き続き検討することとなった。

資料10：平成24年4月以降実施予定の、オオムギリソースで整備中のカード決済の業務の流れについて、詳細が説明された。

【質疑応答】

Q: H23年度までは同一機関内への分譲は配布業績（課金対象）としてカウントされなかったが、今後は？

A: 課題実施機関と同一機関内へのリソース分譲は、平成24年度からは配布業績としてカウントされる（自家消費として）。（平成23年度までは、配布業績としてカウントされないし、課金対象にならない）。課金対象になるかどうかは不明。

Q: H22年度の課金システム導入後の配布実績の増減は？

A: 配布件数は減少。学長決裁による所要時間の長期化、複雑化が原因ではないかと考え、クレジット決済導入を検討した経緯がある。

Q: NBRPの他植物種の課金状況は？

A: 種毎に異なる。ちなみに生物研ジーンバンクのイネの場合は、系統は¥5,000/系統だが、RIL等の集団は¥5,000/集団と安価である。

Q: 途上国等、支払い負担が大きい分譲相手にも課金するのか？

A: 分譲先の事情に応じて課金の猶予を判断する場合もある。

Q: 共同研究の場合も課金するのか？

A: 共同研究（e.g. 共同研究拠点としての共同研究課題の一環として）実施する場合は課金なく分譲できるが、共同研究契約が終了後は使用が不可になる。一方、NBRPを介した分譲であれば、研究課題による縛りはない。

2. ゲノム解析への申請について

以下の何れかの申請を検討している旨、説明があった。計画についてはメールで運営委員からの意見を募ることとなった。

- ・ 96 品種の RNA-seq 解析：約¥500 万（シーケンスは基生研あるいは遺伝研に依頼）
- ・ Genotype by sequencing 解析：¥500-800 万

（材料：はるな二条 X H602 のマップ集団 or 96 系統の交配親品種？）

【質疑応答】

- Q: TILLING スクリーニングや, BAC ライブラリーの解析受託サービスは？
- A: TILLING 分析用の機器がないため, NBRP にサポートされない限りは運用できない.
従って, 当該リソースは実質運用できない.
- Q: 配列情報（ドラフトシーケンス）は利用可能か？
- A: 論文公表までは, アクセスできない.

その他

- ・ 参考資料 1：大麦・野生植物資源研究センター運営委員会議事要旨が紹介され学内から系統保存事業にかかわる運営費交付金が交付されたことが紹介された.
- ・ 参考資料 2：JSPS 二国間交流事業でカザフスタンにおいて 50 系統あまりの栽培および野生オオムギ収集したことが紹介された.